

## はじめに

### 問題演習の重要性

あたり前のことですが、大学入試では、与えられた設問に対して正解し得点を獲得しなければなりません。ということは、学習にあたっては、たんに知識をインプットするだけでは全く不十分であり、問題演習が必要不可欠です。

ただし「問題演習」といっても、何となく解答して答え合わせをして終わりとしたのでは、実力アップは望めません。まず、問題を解くにあたっては、なぜその選択肢が誤りなのか、自分がどうしてこれを正解だと判断したのか、きちんと根拠を明らかにしながら解答していく必要があります。「カン」で解いたのではダメです。そして、解説を読みながら、自分の判断根拠が適切だったかどうかを点検し、どのように考えれば正解できるのかを一つずつ確認していくことが重要です。正解の選択肢はもちろんのこと、誤りの選択肢についても、その記述がなぜ誤りなのか、きちんと押さえていく必要があります。正解以外の選択肢にも重要な受験情報が詰まっていますから、不正解だからといって無視せず、注意深く解説を読み進めましょう。こうした作業を通じて、習得した知識はより正確なものとなり、応用力も育成されていくはずですよ。

### 本書の特長

この問題集は、良問が揃っていることで知られてきたセンター試験および共通テストの「政治・経済」などの過去問をもとに(有益なものであれば大学入試センターの公表した試作問題も利用して)編集・作成しました。実際の入試では総合問題として出題されることが通例ですが、ある単元を学習したのち、すぐにその単元の問題演習に取り組むようにという配慮から、「step 1」では単元ごとに、知識や理解度をストレートに試す設問配列としました。そして「step 2」では、ややレベルを上げながら、その分野の本格的・実戦的な、あるいは思考力・判断力がとくに試されるような、総合問題を取り上げました。

本書を活用することで、「政治・経済」の正しい知識が身につき理解も深まるとともに、思考力・判断力も育成できるはずですよ。これらは、大学入試対策としてきわめて重要なことです。本書を利用して、皆さんが自分の志望をかなえることができるよう、心から願っています。

# 目次

## 第1編 現代日本の政治と経済

7

### 第1章 現代日本の政治 ..... 8

#### 第1節 民主政治の基本原則

- step 1** [1-1] 政治と国家 8, [1-2] 市民革命と人権宣言 9,  
[1-3] 社会契約説 10, [1-4] 人権保障の発達 11,  
[1-5] 法の支配・権力分立 12, [1-6] 世界の主な政治体制 13,  
[1-7] 社会生活と法 14, [1-8] 大衆民主主義とファシズム 15
- step 2** 16

#### 第2節 日本国憲法の基本原則

- step 1** [2-1] 日本国憲法の制定と基本原則 21, [2-2] 基本的人権の保障 22,  
[2-3] 平和主義 24
- step 2** 26

#### 第3節 日本の政治機構

- step 1** [3-1] 国会と立法 29, [3-2] 内閣と行政 30, [3-3] 裁判所と司法 31,  
[3-4] 地方自治 32
- step 2** 34

#### 第4節 現代政治の特質と課題

- step 1** [4-1] 選挙制度 39, [4-2] 政党政治と政治参加 40,  
[4-3] 世論とマスメディア 41, [4-4] 行政権の拡大と行政の民主化 42
- step 2** 43

### 第2章 現代の資本主義経済 ..... 47

#### 第1節 経済社会の変容

- step 1** [1-1] 資本主義の発展 47, [1-2] 経済学の歩み 48
- step 2** 50

#### 第2節 現代経済のしくみ

- step 1** [2-1] 市場と企業 53, [2-2] 財政と金融 58,  
[2-3] 国民所得と経済成長 60
- step 2** 62

### 第3節 日本経済の発展

- step 1** [3-1] 戦後日本経済の歩み 67, [3-2] 1980年代以降の日本経済 68,  
[3-3] 産業構造や経済環境の変化 72
- step 2** 74

### 第4節 国民生活と日本経済の課題

- step 1** [4-1] 中小企業と農業・食料問題 79, [4-2] 労働問題 83,  
[4-3] 社会保障 86, [4-4] 消費者問題 89,  
[4-5] 公害・エネルギー問題 90, [4-6] 情報社会化と地域問題 91
- step 2** 92

## 第2編 グローバル化する国際社会

99

### 第1章 現代の国際政治 .....100

#### 第1節 国際政治のしくみ

- step 1** [1-1] 国際関係と国際法 100, [1-2] 国際連合の役割と課題 101
- step 2** 104

#### 第2節 複雑化する国際政治と日本

- step 1** [2-1] 国際政治の動向 106, [2-2] 軍縮の動向と課題 107,  
[2-3] 紛争・難民問題 108, [2-4] 国際社会における日本の役割 109
- step 2** 111

### 第2章 現代の国際経済 .....114

#### 第1節 国際経済のしくみ

- step 1** [1-1] 貿易と国際収支 114, [1-2] 為替相場 117,  
[1-3] 戦後の国際経済体制 119
- step 2** 120

#### 第2節 世界経済の現状と課題

- step 1** [2-1] 世界経済の現状 124, [2-2] 地球環境問題 128,  
[2-3] 国家間格差と経済協力 129
- step 2** 130

## 第2章 現代の資本主義経済

### 第1節：経済社会の変容

#### step 1

##### 1-1 資本主義の発展

問1 イギリスに産業革命が起こり、繊維産業で機械制大工業が確立し、次いで19世紀後半から20世紀初頭にかけて、欧米諸国では鉄鋼業を中心とした重工業が発展した。この19世紀後半から20世紀初頭にかけての時期の技術革新についての記述として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

1

- ① 技術革新によって男性熟練労働者が不要となり、女性や児童が工場労働の主力となった。
- ② 新技術を導入するために大量の資本が必要となった分野では、株式会社制度が広く利用された。
- ③ 新技術を開発した企業がたえず市場に参入したので、重工業では寡占化は生じなかった。
- ④ 新技術の導入によって失業した労働者が、大規模な機械打ち壊し運動(ラッドライト運動)を引き起こした。

問2 1929年にアメリカから始まった世界恐慌に関連する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 2

- ① 世界恐慌を機に、主要国は、スミソニアン協定を廃棄した。
- ② 世界恐慌を機に、主要国は、金本位制から管理通貨制へ移行した。
- ③ イギリスでは、世界恐慌に対処するために、ニューディール政策が実施された。
- ④ ソ連・東欧では、世界恐慌に対処するために、コメコン(経済相互援助会議)が結成された。

## 第2章 現代の資本主義経済

### 第1節：経済社会の変容

#### step 1

#### 1-1 資本主義の発展

解答  1  2  2  2  3  3  4  ①

問1  1  2が正解。鉄鋼業といった重工業は、巨大な生産設備が必要な産業なので、それだけ巨額の資本(元手)を集めなければならない。しかし、一人の個人でこれを用立てることは、きわめて困難である。そこで発達したのが株式会社である。これは、株式という形で、小口の出資を多くの人から募るといふものである。たとえば、5億円の資本を一人で用立てることは難しいだろうが、これを5万円ずつに分割して1万口を集めれば、合計5億円を用立てることができる。

③以上から分かるように、巨額の資本を集めることができるものしか重工業には参入できない。つまり、限られた少数のものしか参入できないのだから、少数企業による市場支配、すなわち寡占が成立(寡占化)することになる。①は、18世紀後半からの産業革命によって生じた変化。産業革命によって機械化が飛躍的に進み、熟練の技術がなくても(つまり熟練労働者でなくても)生産活動に従事できるようになったのである。④この産業革命の結果、熟練労働者は失業することとなった。そうした熟練労働者は、機械があるから自分たちは失業したのだと考え、機械を打ち壊す運動を起こした。イギリスでは19世紀前半に、ラッドライト運動として広がった。

問2  2  2が正解。1929年にアメリカから始まった世界恐慌によって、高い失業率や生活困窮者の増加など、深刻な問題が発生した。資本主義はそれまで、自由放任主義のもと、政府が経済に介入しないことを基本的なスタンスとしていたが、世界恐慌によって生じた問題を解決するために、それまでのスタンスを改め、政府が経済に積極的に介入するようになった(修正資本主義・混合経済)。たとえば、アメリカではF.ローズベルトのもと、ニューディール政策が実施され、公共投資の拡大などによる景気浮揚策が行われた。さて、この世界恐慌をきっかけに、主要国は1930年代に相次いで、金本位制を放棄して管理通貨制度に移行した。金本位制とは、中央銀行が金